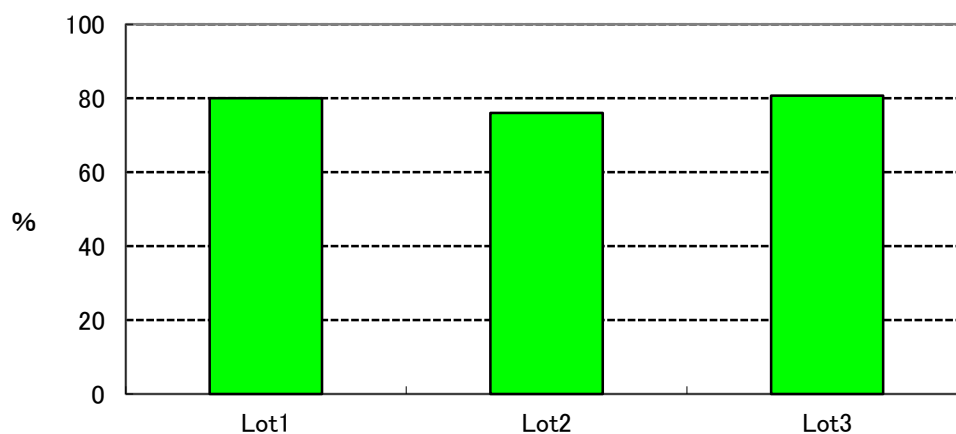


溶解用液の温度がワクチンウイルスに与える影響

(4℃に冷却した溶解用液に浮遊させ、さらに4℃下で1時間静置した後のワクチンウイルス量の変化；室温の溶解用液に浮遊し、さらに室温下で1時間放置した場合におけるウイルス量の変化を100とする)。



☆マレック/バッグは室温保存して下さい。4℃保存より室温保存の方がワクチンウイルスに対しての影響は低く抑えられます。

※1984年試験、ワクチンウイルス：HVT株